



京都産業大学

教育機関
(大学)

創立50年以上の歴史を持つ同大学は、本山キャンパスに約15,000人の学生が集う一拠点総合大学である。近年は学修環境の充実とSDGsの推進にも力を入れており、キャンパス内の施設の新設や改装、設備の省エネ化に取り組んでいる。



事業者概要 (2022年4月現在)
代表者 理事長 大城 光正
所在地 京都市北区上賀茂本山
電話番号 075-705-1408 (総務部)
主な事業内容 教育機関 (私立大学)
URL <https://www.kyoto-su.ac.jp/>

取組の背景

- 省エネ法の第一種管理指定工場に指定されており、省エネに向けた様々な取組を模索していた
- コロナ禍により換気のため窓を開放した結果、空調効率が悪化したため、エネルギー効率向上が必要であった

#大学 #ガスヒーポン #ガス会社全面協力
#設備更新 #補助金活用 #学生ファーストの取組

取組の内容

ガス会社のサポートの下、高効率ガス空調に更新

- ガス会社からの提案を受け、高効率のGHP (ガスエンジン・ヒートポンプ) 空調を導入 (図1)
- ガス会社からは国 (国土交通省) の補助金活用の提案及び申請サポートも受け、導入コストを抑制



GHPは電気式に比べて出力が大きいいため、大教室や広い校舎内の空調を効率的に運用できると判断
目標値として26%の省エネ効果を設定 (達成に向け効果を測定中)

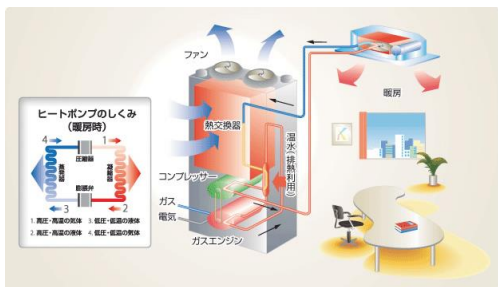


図1：ガス会社の協力の下、補助金を活用し高効率のGHP空調に更新

遮熱フィルムや空調設定の工夫で、エネルギー消費を抑制

- 窓ガラスに遮熱フィルムを貼ることで外部からの熱を遮断し、空調効率を改善
- 屋上に断熱性の防水シートを施工したほか、照明をLED化
- 授業のない時間帯には教室の空調の電源が自動でOFFになるよう設定し、無駄なエネルギー消費を削減



豊かな自然に囲まれた本山キャンパス

学生や教員に配慮した省エネ計画

- 教育研究機関であるため、学生や教員の快適な学修・研究環境を阻害しないよう無理な節電等は行わず、エネルギー効率を高める設備更新や運用の工夫等により省エネ化を推進
- 設備更新にあたっては、夏期休暇中など学生の往来が少ない時期に行う事で、学生や教員に負担を強いることなく工事等を実施



新校舎建設が一段落したことから、既存校舎の改装によって更なる設備の省エネ化を進めていく予定
研究棟2棟について計画中 (ガス会社協力の下、補助金の申請手続きに着手)



快適な学修環境を第一に考えた取組